

[果樹部門]

1. 8月下旬に成熟する極晩生のモモ新品種「岡山モモ 11 号」の育成

[要約]

果皮着色しにくく、大果で糖度が極めて高く、肉質がち密で食味が優れ、8月下旬に成熟するモモの新品種「岡山モモ 11 号」を育成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「岡山白桃」のシリーズ化にはオリジナルの極晩生で白いモモの品種が必要であることから、8月下旬から9月上旬に成熟し、栽培が容易で、果皮着色しにくく、糖度が高くて、食味の優れたモモ新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 岡山県農業総合センター農業試験場（現 岡山県農林水産総合センター農業研究所）で、2003 年春「おかやま夢白桃」に「白麗」を交配し、得られた交雑実生個体について、2010 年から「岡山モモ 11 号」として選抜を継続し、育成した品種である。
2. 開花期は「新白麗」よりやや早く、花粉を有する。果実の成熟期は8月下旬で、「新白麗」より2日程度遅い。核は粘核で、生理的落果や核割れは比較的少ない（表1）。
3. 果実重は 330g 程度で大きく、果皮着色は、「新白麗」より少ない。果肉は乳白色で溶質、果実硬度はやや軟らかい。糖度は極めて高く、酸味は少なく、食味はかなり優れている（表2、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 岡山県内のモモ栽培地域で栽培可能で、当面県外へは苗木を供給しない。
2. 年によって、果実肥大の劣る小果が発生することがある。
3. 本品種は「岡山 P E H 7 号」として品種登録(2016年3月22日)され、「白皇」として商標登録(2017年9月15日)された。系統名は「岡山モモ11号」である。「追記2018年9月」

[具体的データ]

表 1 「岡山モモ 11 号」の生育特性^z

品系	種名	開花盛期 (月. 日)	収穫盛期 (月. 日)	花粉 有無	核の 粘離	核割れ 多 少	生理的 落 果
岡 山 モ モ 1 1 号		4. 7	8. 27	有	粘	微	少
新 白 麗		4. 9	8. 25	有	粘	無	微
初 秋 白 桃		4. 11	9. 10	有	粘	無	少

^z 育成地における 2012～2013 年の平均値

表 2 「岡山モモ 11 号」の果実特性^z

品系	種名	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	酸度 (pH)	果実 硬度	果皮 着色	食味 評価 ^y
岡 山 モ モ 1 1 号		335	17. 0	4. 9	やや軟	微	中上
新 白 麗		263	15. 2	4. 6	中	少	下上
初 秋 白 桃		285	15. 6	3. 7	硬	微	中下

^z 育成地における 2012～2013 年の平均値

^y 食味評価は官能試験における下下～上上の 9 段階評価



左：新白麗 中：岡山モモ 11 号 右：初秋白桃

図 1 「岡山モモ 11 号」の果実比較

[その他]

研究課題名：モモ新品種の育成

予算区分：県単

研究期間：2003～2013 年度

研究担当者：日原誠介、田村隆行

関連情報等：日原ら(2014)、品種登録出願 第 28903 号